

令和4年度 学校評価一覧表②(様式2)

館林市立第二中学校

評価 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:もう少しで達成できた D:達成できなかった

評価対象	羅針盤		自己評価			学校関係者評価 意見等	今後に向けての学校の考え
	評価項目	具体的数値項目	①	②	生徒・保護者		
I 保護者等との連携	[保護者への情報提供] 学校は、連絡や生徒の様子等を保護者にきめ細かく伝え、理解を得ている。	○学校や生徒の様子が分かると感じている保護者が80%以上。	A	A	(保護者)84.5%	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校全体としての努力の結果だと思います。学校にできることはここまで、生徒が行うべきことはこれこれと役割分担を決め、保護者に納得してもらうことが大切だと思います。</li> <li>学校の様子が学校、学年、学級通信の発行、webページ、Home&amp;Schoolの活用により、きめ細やかに保護者に伝わっている。アプリを活用しての情報提供は有効であることが実証されている。</li> <li>Home&amp;Schoolの導入により、タイムリーな情報を保護者に知らせており、これまで以上に学校や生徒のよすがが伝えられている。欠席連絡も学校の業務改善に非常に効果的である。</li> <li>地道な情報提供が重要かと思えます。今後も継続的な情報共有が望まれます。引き続き、メールやアプリを活用した情報伝達は重要です。</li> <li>様々なツールを活用して情報を配信していることが、保護者に伝わっていると思います。</li> </ul>	○今後も引き続き、学校だよりや学年通信、学校配信アプリ、webページ等の効果的な活用に取り組み、生徒の活躍や学校の様子等をタイムリーに情報提供できるよう努めます。 ○学校と家庭が効率よく情報共有や連絡を取り合えるように学校配信アプリや出欠席連絡アプリを活用していきます。
	[連携のための環境づくり] 学校は保護者が連絡や相談をしやすいと感じる雰囲気づくりに努めている。	○学校は連絡や相談がしやすいと感じている保護者が80%以上。	A	A	(保護者)87.6%	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校にできること、家庭で行うことを連携させることが大切だと思います。</li> <li>保護者と良好な関係かと思えます。</li> <li>学校側も保護者が連絡や相談をしやすいと感じるように努力されていることがわかる。</li> <li>相談しやすい学校は、信頼につながる。</li> <li>学校から歩み寄りハードルを下げることで相談しやすいと感じられるのではないかと。</li> </ul>	○教育相談の機会を工夫したり、定期的に連絡を取り合ったりし、連絡では事務連絡だけでなく最近の生徒の様子を情報交換し、引き続き保護者との信頼関係を深めます。
II 確かな学力	[分かる・楽しい授業] 学校は、生徒が分かり、満足感や達成感を味わえる授業づくりを行っている。	○授業が分かると感じている生徒が、80%以上。 ○授業が楽しいと感じている生徒が、80%以上。	A	A	授業が分かる(生徒)89.4% 授業が楽しい(生徒)83.7%	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業改善は永遠のテーマです。不易流行の不易の部分と時代と共に変わる流行の部分とをいかに結合させ、生徒にわかりやすい授業を届けられるかが肝心だと思います。</li> <li>生徒が分かり、満足感や達成感を味わえる授業づくりに努めていることでしっかり結果が出ている。</li> <li>タブレットを活用することにより振り返りの復習がしやすく、生徒自身が意識して内容を理解できている。</li> <li>分かる、楽しいと感じる生徒が増加しており、素晴らしいです。</li> <li>引き続き、教師の指導力のレベルアップに努め、生徒に寄り添った授業を実施してほしい。</li> <li>授業が分かり理解が深まることは楽しくなることです。</li> </ul>	○教師一人一人が常に授業力の向上に努めます。生徒が「わかる」「楽しい」と達成感や満足感を感じることができる学習展開を工夫し、生徒の主体的・対話的で深い学びにつながる授業づくりをさらに推進していきます。
	[ICTを活用した学習指導] 学校は、生徒が授業をよりよく理解することができるように、ICTを効果的に活用した学習をしている。	○タブレットを使用することによって、「授業がわかりやすくなった」と答えた生徒が80%以上。	A	A	(生徒) 1年生87.0% 2年生92.3% 3年生91.4%	<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレット使用になれてきたところですが、タブレットを使用した先に目的や目標があり、タブレットを使うこと自体が目的にならないように注意する必要があります。</li> <li>DXに対応した先端の教育実践に取り組み、生徒の学習意欲と学力を高めている。</li> <li>生徒がタブレットを活用することで授業が分かりやすくなったことはICTを効果的に活用し学習できている成果である。</li> <li>コロナ禍にあってもタブレットを使うことで、不登校の生徒も授業が理解できるようになったことを保護者が喜んでいました。</li> <li>タブレットの活用が進み、効果が上がっており、指導に感謝致します。タブレットで勉強がわかりやすくなったとほとんどの生徒が答えているのはすばらしいことである。</li> <li>時代に沿ったICTの活用は、現代社会に必要不可欠である。</li> <li>時代に即したツールを使うことで興味をもって授業に取り組んでいる。</li> </ul>	○今後も、ICTを活用した授業を実践することで、主体的・対話的で深い学びを実現できるように、職員のICT活用能力と授業力の向上に励みます。そして、ICT機器を活用することで、従来行えなかった授業形態(提示の仕方、学び合い、まとめ方等)を展開し、わかる楽しさを実感させて、学ぶことは楽しいと実感させていきます。
	[学習習慣] 学校は、生徒に家庭学習の習慣が身に付くよう適切に指導している。	○1日あたりの家庭学習(塾等を含める)の時間が、1時間以上である生徒が80%以上。	B	B	(生徒)69.2%	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員が丁寧に教えずぎると生徒は考えなく(勉強しなく)なります。「生徒自身の頭で考えさせる授業」を展開する必要があると思います。</li> <li>家庭学習と携帯スマホゲームと関係があり、携帯、スマホ、ゲームの時間が長いと学習時間が短いのではないかと思う。</li> <li>生活時間を考える学級活動を年度初めや長期休み前に実施するとよいのでは。(やっている)</li> <li>スマホやゲームによって時間が割かれているのではないかと。</li> <li>家庭学習というよりは塾に頼り切りになっていないか。</li> <li>ICTの活用でもっと高められないか。</li> <li>小中で連携し、自主学習や宿題の出し方について協議し、連携して具体的な学習の仕方を示すなどして、学習習慣を身に付けさせたい。</li> <li>小学校でもこの項目が低いところである。子ども自身に必要感をもたせることが大切である。自己指導力の育成も必要である。宿題についてのICTの活用にも目を向けていきたい。</li> <li>中学生はやりたいことも増え、休息の時間も必要なことから全員が1時間以上が目標でなくてもよい。</li> <li>宿題等で予習復習をを習慣化させる。</li> </ul>	○個別最適な学びの提供、ICTを活用した家庭学習の視点や内容を盛り込むなど二中版学習の手引きを改訂し、それを活かした家庭での自主学習を奨励していきます。また、家庭での学習の質的な転換のための工夫・改善をしていきます。 ○小中で連携し、家庭での学習の仕方について協議し、学習習慣の確立に取り組むとともに、家庭学習の時間を奪う携帯、スマホ、ゲームの使用について、学校としての指導について共通理解を図り、学校と家庭で連携した指導に今後取り組んでいきます。
III 豊かな心	[あいさつ] 学校は、生徒が自分から進んであいさつできるよう適切に指導している。	○自分から進んでしかっかりとしたあいさつができる生徒が80%以上。	A	A	(生徒)85.0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>「私はあなたの敵ではありません。だから、よろしくお願ひします。」という意味である元気でさわやかな挨拶を継続してほしいと思います。</li> <li>中学生は自分から進んであいさつができ、気持ちよい。</li> <li>思春期の生徒が自分からあいさつをするのは恥ずかしさもあるので、大人からも声がけするよう努めます。</li> <li>今後もあいさつ運動を継続してほしいと思います。</li> <li>二中を訪問した際、廊下で生徒から気持ちのよいあいさつをしていただいています。</li> <li>二中の生徒は以前からよくあいさつをしてくれます。校内に限ってですが、あいさつが社会に出てから大切で、人間関係の基本であることを伝えてい</li> </ul>	○引き続き、朝の登校時、授業等の開始・終了等すべての教育活動の場面を通じて、あいさつの意義を生徒に考えさせ、あいさつや返事を交わすよさや大切さを伝えていきます。特に部活動や校外活動においては、人間関係づくりや礼節の態度を実践する場として教師が率先垂範し指導していきます。

<p>[いじめのない温かな人間関係] 学校は、いじめのない学校づくりを推進している。</p>	<p>○学校生活が楽しいと感じている生徒が、80%以上。</p> <p>○学校のいじめへの対応や対策が十分であると思う生徒・保護者が80%以上。</p> <p>○ケータイ、スマホ、ゲーム機等を毎日、午後9時以降学習以外で使っていない生徒が80%以上。</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>D</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>E</p>	<p>(生徒)91.3%</p> <p>(生徒) 81.6%</p> <p>(保護者)87.6%</p> <p>(生徒)19.7%</p>	<p>く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒に考えさせ、生徒に決めさせる指導が大切だと思います。</li> <li>・学校生活が楽しいと感じる生徒が90%以上いるということに安心した。楽しい学校であることがうかがえ、素晴らしいです。</li> <li>・素晴らしい結果です。</li> <li>・明るい学校の確立(生徒が学校に行きたくなる雰囲気作りを)</li> <li>・JOや合唱コンクールなどのイベントを通じてクラスが団結し、良好な人間関係が築けていると思います。</li> <li>・友人同士のトラブルといじめは境界線が難しいが、問題に学校、生徒、保護者が向き合い取り組んでいくことで解決の糸口が見つかると思う。今後も継続してもらいたい。</li> <li>・いじめの早期発見と早期対応を教職員、生徒、保護者で連絡を取り合い、細やかに情報共有が図れるようお願いしたい。</li> <li>・いじめや嫌な思いをしている生徒が「0」であってほしいので、目標値を80%より高くもっていただきたい。</li> <li>・いじめは絶対にあってはならないこと。教師の目配りと生徒同士のコミュニケーションを図る。</li> <li>・評価①より②が向上したのはよかった。デリケートな問題ですが、きめ細かな対策が重要と感じます。いじめに関する指導は継続的に実施することが大切。</li> <li>・ノーメディアデー、ノーメディアアワーを設定し、その日その時間は極力メディアから離れるようにすることが必要だと思います。そして、そのためには保護者をはじめとする大人についても同じ行動をとることが必要だと思います。</li> <li>・現代社会で夜9時以降スマホを使わないという目標の見直しが必要ではないか。子どもたちの実態からも9時以降という目標設定は難しいのではないか。ノーメディアではなく、メディアコントロールの取組がよいと思います。</li> <li>・スマホは手放せないツールになっています。(中学生に限らず)</li> <li>この項目は保護者も含めて考えていかないと達成は困難である。</li> <li>・具体的な数値項目の設定は適切なものか。現在の社会情勢から見ても再検討も必要なのではないか。</li> <li>・メディアリテラシーに着目して指導されていることが何よりです。</li> <li>・目標が高すぎるのではないか。ICTの普及との整合性はあるか。</li> <li>・帰宅後、勉強や食事、入浴などあれば、9時以降しか、使う時間がないので、仕方がないのではないか。</li> <li>・生徒自身に問題意識がない。それをもたせるために、家庭や地域を巻き込むことが必要である。(ノーメディアデーの取組を続けましょう)</li> <li>・家庭学習と絡めて生活時間を考える機会を実施するとよいのでは。授業参観等で扱って、親子で考えるような機会があってもよいのでは。(親は知らないことが多いのでは)</li> <li>・家にいるときのケータイスマホゲームについては難しい問題だと思うが、ご指導をお願いします。</li> <li>・家庭でのルール作り</li> </ul>	<p>○コロナ禍で確立した取組も生かし、今後も生徒会本部が中心となって生徒が主体となった活動を企画、実施するとともに、合唱コンクールやJOなどの学校行事を工夫して行い、生徒が学校に来ることが楽しいと感じる明るく生徒の居場所のある温かい雰囲気の学校づくりに努めていきます。</p> <p>○学級担任を中心に、「QU」,「学校生活アンケート」や「ライブ」、次年度から導入される「スクールライフノート」で生徒の言葉や様子を見落とさず、気になることがあれば、すぐに声かけをし、早期発見・早期対応を全職員で心がけ、報告・連絡・相談を行い、生徒、保護者に寄り添う指導をします。</p> <p>○引き続き、道徳や学活を通して、いじめに関する題材を取り上げる等、未然防止に努め、そのことを家庭に発信し、協働していじめ防止に努めます。生徒の笑顔があふれるような、いじめ防止活動を計画的に実施し、いじめのない学校づくりを目指していきます。</p> <p>○CSの機能を活用し小中で連携して、携帯、スマホ、ゲームについてノーメディアデーやメディアコントロールウィークを実施し、家庭とも連携して指導していくとともに、情報モラル教室などを通して生徒自身に考えさせる場を設けていきます。また、保護者の方には、学校通信等を通して、家庭でのルールづくりについて理解、協力をお願いしていきます。</p>
<p>[自己有用感] 学校は、生徒が自己有用感を高めることができるような支援を適宜行っている。</p>	<p>○学校生活において自分の役割果たし、みんなから認められるような自己有用感をもっている生徒が80%以上。</p>	<p>B</p>	<p>B</p>	<p>(生徒)75.8%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間関係の基本は、周囲にいる人を大切にすることであり、人を大切に初めて自分も大切にされるということを徹底して教え込む必要があると思います。</li> <li>・校内だけでなく コミュニティ・スクール活動の一環として、地域の人や小学生など多様な人とかかわるような総合や特活の授業を実践し、人の役に立つことを実感できるとよいのではないかと思う。委員会など自治活動の充実を図る。</li> <li>・生きていくうえで、とても重要な課題です。夢や希望をもつことで人生が豊かになります。</li> <li>・コロナの影響で場を設けられなかった。</li> <li>・学校、家庭、地域で取り組む必要がある。学校で自己有用感を高めるための自己指導力を高める指導が必要。</li> <li>・中学生はおとなしい生徒が多いのかと思います。</li> <li>・部活動や係や当番の仕事を通してやりがいを見せさせる。</li> </ul>	<p>○自己有用感の醸成は本校の生徒にとって重要課題の一つであると捉え、ICTを活用した「わかる授業」や合唱コンクールやJOなどの学校行事や生徒会活動を工夫した生徒主体的活動の場を実施し、生徒の活躍や激励、賞賛の場面をつくり、全教職員が生徒の居場所や自己有用感が高められるよう支援していきます。</p>
<p>IV 活動の意欲</p> <p>[生徒活動の充実] 学校は、生徒が行事や部活動に対して、主体的に活動できるよう工夫している。</p>	<p>○行事(JO,合唱コンクール等)や部活動に積極的かつ向上心をもって参加している生徒が80%以上。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>	<p>(生徒)93.7%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事はできるだけコロナ禍以前の形に戻すことを前提に、様々な工夫</li> <li>・改善を凝らしていく必要があると思います。</li> <li>・意欲的でよい。</li> <li>・合唱コンクールで3年生の歌を聴き、レベルの高さに驚愕しました。全員の積極的で真摯な態度での取り組みが素敵でした。</li> <li>・合唱コンクールでも全員が真剣に取り組む姿が見られ、主体性や活動意欲の向上に成果が出ており素晴らしいです。</li> <li>・生徒が主役の学校になっていると感じます。</li> <li>・コロナ禍でも、学校が工夫をしながら、行事を開催できたことがよかったと思います。</li> <li>・一つのことをみんなで協力しやり遂げるよさを体験させる。</li> <li>・向上心をもって積極的に参加する姿勢は自己有用感につながり、よいことです。90%以上の数値は素晴らしい。</li> </ul>	<p>○日常化した感染対策を継続しつつ、感染状況の変化を考慮しながら、実施可能な方法で生徒を主体とした学校行事を実施していきます。合唱コンクールやJOでは、学級の目標に向かって積極的に取り組む生徒の姿が多くみられました。今後も生徒が積極的に参加できるような活動になるよう、工夫していきます。</p>
<p>[集団への寄与] 学校は、生徒が協力して清掃や係、当番活動に取り組むよう努めている。</p>	<p>○清掃や係、当番活動に友達と協力して進んで取り組んでいる生徒が80%以上。</p>	<p>A</p> <p>A</p>	<p>A</p> <p>A</p>	<p>清掃 (生徒)90.4%</p> <p>係当番 (生徒)87.9%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「今月の清掃重点箇所」等を定めて、誰が見ても清掃が行き届いている状況を確認することが大切だと思います。</li> <li>・新型コロナが5類扱いになり行動制限等が見直しされ、ある程度元の状態に戻れば、ボランティア活動も可能になると思います。</li> <li>・生徒が協力して進んで清掃や係、当番活動ができていてよかったと思います。</li> <li>・協力、協調の大切さ、何事にも一生懸命取り組む大切さを教える。</li> <li>・友達と協力して取り組む姿勢も素晴らしい。</li> </ul>	<p>○清掃や係、当番活動については真面目に友達と協力して取り組む生徒の姿が多く見られています。コロナ禍で二中の伝統ある多くのボランティア活動が中止となっている現状があります。次年度は感染状況を見ながら、学校行事や総合的な学習として、人のために役に立つ喜び、地域に奉仕、貢献する心の育成という視点で、できる限り、ボランティア活動を実施していきたいです。</p>

評価対象	羅 針 盤		自 己 評 価			学校関係者評価	今後に向けての学校の考え
	評価項目	具体的数値項目	①	②	生徒・保護者	意見等	
V 健康・体力	[基本的生活習慣] 学校は、生徒が毎日朝食や適切な睡眠をとって登校できるよう具体的な働きかけを行っている。	○毎日必ず朝食をとっている生徒が80%以上。	A	A	(生徒)91.32%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭の責任と思いますが学校での指導もご苦労様です。</li> <li>・早寝早起き朝ご飯という基本的な生活習慣は生徒の活力の源です。</li> <li>・保護者への呼びかけを粘り強く行う必要があると思います。</li> <li>・90%以上の生徒が必ず朝食をとっていて安心しました。また、すばらしいと思います。</li> <li>・「健康を自己管理する」ことを自覚させることが大切です。</li> <li>・子どもの適正な睡眠時間について6時間以上ではなく7時間以上ではないか。</li> <li>・家庭の責任と思いますが学校での指導もご苦労様です。</li> <li>・食と睡眠は生活する上で重要。活発に学校生活を送れるのではないのでしょうか。</li> </ul>	○日常の指導や保健だよりや掲示物等の活用を通し、朝食の大切さを引き続き啓発していきます。感染症の予防のためにも規則正しい生活で免疫力を高めることの重要性を理解し、新しい生活様式のもとに実生活で取り組めるよう指導をしていきます。 ○体調不良で来室する生徒の中には、睡眠不足が原因と考えられる生徒もおり、睡眠の大切さについて、その都度個別指導を行っています。質の良い睡眠がとれるよう就寝前のスマートフォンの使用の影響等を引き続き、保健だよりや保健委員会の活動を通して啓発していきます。
		○週平均1日6時間以上の睡眠をとっている生徒が80%以上。	A	A	(生徒)81.7%		
	[体力の向上] 学校は、進んで体力の向上を図ろうとする生徒の育成に努めている。	○日常的に進んで自分の体力を向上させようとしている生徒が80%以上。	A	A	(生徒)84.1%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校以外の場所、例えば家庭でもできる運動等を継続させることが大切だと思います。</li> <li>・昼休みの学年練習に多くの生徒が参加して体力アップに取り組めたとのことです。</li> <li>・健全な体力は社会に出てからの基本であることを伝える。</li> <li>・運動不足がささやかれる現代により取組だと思えます。</li> </ul>	○朝ランに自主的に継続して参加する生徒が多く見られ、体力向上に意識をもって活動している生徒が増えてきています。さらに、「自信をもって取り組んだ。」と答えられるような体力づくりへの取り組みに、引き続き繰り返し指導を行っていきます。
VI 安全確保	[学校の安全対策] 学校は、交通事故防止、火災・地震・不審者対策など、  安全教育の徹底を図っている。	○交通ルールを守り、ヘルメットをかぶって登下校している生徒が100%。	B	B	(生徒)99.0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見守りや指導を継続して行うことが大切だと思います。</li> <li>・交通事故防止対策は大切であると思います。ヘルメット着用の重要性の意識が高まるとよいです。</li> <li>・かぶっていない1%について詳しい説明がほしい。</li> <li>・私が見かける範囲では100%の生徒がヘルメットをかぶっています。</li> <li>・ヘルメット着用が徹底されていると思います。</li> <li>・全生徒がヘルメットの着用ができていて、大きな事故がなかったとのことで安心しました。今後お願いしたい。</li> <li>・いざという時の心構え、命を守る行動</li> <li>・防災意識を日頃からもたせることも大切です。</li> <li>・可能なら、抜き打ちの避難訓練を実施することも検討されたい。</li> <li>・いつ起きてもおかしくない災害や事故に備え、日頃の訓練は必ず、役に立つと思う。</li> <li>・災害時の避難の仕方に関する態度を身に付けている生徒が多いことはすばらしいです。</li> <li>・訓練だけでなく、学級活動等で防災・交通等危険について考える時間を確保し、時にはワークショップ形式で話し合ってもよいのでは。地域の防災士の活用などもできる。</li> <li>・避難するだけでなく、クイズ形式で知識も身に付いたのだと思います。</li> </ul>	○ヘルメットについては、登下校時は全生徒が着用しています。課題である一時停止・安全確認、とび出し防止を徹底させるために、引き続き、企業と連携した自転車安全教室を実施するなど、繰り返し指導を行っていくとともに、特別授業での指導の場を設定していきます。  ○今年度は、不審者対応訓練や耐震火災避難訓練の際に、避難経路等を事前に知らせず、避難誘導者の判断で避難するなど工夫した取組を行った。今後も、判断力や危険回避の能力を高められるよう、工夫しながら指導を行っていきます。
		○災害や、火災発生時の避難の仕方に関する態度を身に付けている生徒が80%以上。	A	A	(生徒)88.9%		
	[地域の安全対策] 学校は、家庭や地域と連携して、交通安全指導や通学路の点検・パトロールを適切に行っている。	○自分の通学路の事故等が起こりそうな危険箇所を知っている生徒が80%以上。	A	B	(生徒)76.4%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・丁寧に指導してください。・常に危険箇所の確認は必要。</li> <li>・生徒玄関に掲示してある危険箇所マップがわかりやすく素晴らしい。</li> <li>・随時通学路の見直しを行うことが大切だと思います。</li> <li>・家庭や地域と連携し、危険箇所には時折立哨指導を行うなど、現地での具体的な指導を実施してはいかかか。</li> <li>・通学路も決して安全な場所ばかりではない。できる限りの対策を講じつつ、生徒自身にも気を付けてもらいたい。</li> <li>・安全マップも有効かと思いますが、各自が、状況に応じた危険予知ができる力を身に付けることが事故防止に大切かと思えます。</li> <li>・毎日の通学で意識が慢性化していないか。繰り返し注意喚起をしていくことが重要ではないか。</li> <li>・過去に実際、事故等が起こった場所や事例を生徒に伝えることは必要でないかと思えます。(個人情報には十分配慮しつつ)</li> <li>・通学路の危険箇所は確認と周知、改善をして安全な通学をお願いしたい。</li> <li>・ボランティアの協力を得て取り組む。</li> <li>・しっかりと交通ルールを守り安全意識を高めてもらいたい。</li> <li>・保護者は学校での指導を信頼している反面、頼り切りになっているのではないか。</li> <li>・保護者の理解と連携を継続することが大切だと思います。</li> <li>・見守り隊の協力を募る。</li> </ul>	○今後も生徒作成の安全マップを生徒玄関に掲示し、危険箇所の確認と周知を行っていくとともに、通学路の危険箇所の確認を全職員で行い、通学路の見直し、点検を行っていきます。また、多様な危機管理についての指導を徹底していきます。
	○学校の登下校の安全指導が適切であると感じている保護者が80%以上。	A	A	(保護者)97.6%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・しっかりと交通ルールを守り安全意識を高めてもらいたい。</li> <li>・保護者は学校での指導を信頼している反面、頼り切りになっているのではないか。</li> <li>・保護者の理解と連携を継続することが大切だと思います。</li> <li>・見守り隊の協力を募る。</li> </ul>	○交通ルールの周知徹底を随時行っていき、生徒の安全意識を高められるようにしていきます。安全指導は、教師と保護者の連携が大切であり、今後も安全指導を行うとともに、保護者や地域の理解と協力を得られるようにしていきます。	
VII 進路・生き方	[夢や希望] 学校は、生徒の主体的な進路決定に向け、夢や希望をはぐくむキャリア教育の充実を図っている。	○自分の将来への夢や希望をもっている生徒が80%以上。	B	B	(生徒)74.0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夢や希望をもていないことがとても残念。夢を持てる指導を</li> <li>・次年度はコロナ禍前に戻り指導できるのではないか。</li> <li>・理想は中学生から将来のビジョンについて考えられることが望ましいですが、勉強や運動に一生懸命に励み、友達との交流の中で徐々に自分の適性や目標を考えていけばよいと思います。</li> <li>・この項目は是非目標値以上に上がるよう、より充実したキャリア教育をお願いしたい。</li> <li>・将来の夢＝なりたい職業ではない。</li> <li>・夢や目標に向かって地道に取り組む。</li> <li>・オンライン等を効果的に利用することが大切だと思います。</li> <li>・ゲストティーチャーを招いた講話、職場体験、学級活動・道徳・朝会で取り上げる。</li> <li>・家族とのコミュニケーション、何気ない会話の大切さ。</li> <li>・家庭で生徒の夢や目標について話せる機会がもてるとうい。</li> <li>・家庭の数だけ進路についての考え方があり、それを生徒に気づかせることが大切だと思います。</li> <li>・進路だよりの内容の工夫(親子で話し合った内容をメール等で返信してもらい、双方向のやり取りにする)</li> </ul>	○コロナ禍のため、職場見学や職場体験など自分の将来について考えるための体験的な行事ができなかったが、ICTの活用による職業調べやオンラインによる出前授業(職業インタビュー、講話)を実施できました。今後もICTを活用するなど指導を工夫しながら、地域と連携し、生徒が将来への夢や希望を育めるようなキャリア教育に取り組んでいきます。  ○今後も進路だより等を通して、親子で進路について話し合うきっかけの場を設けていきます。また、家庭で話し合った内容を学級や学年で共有することによって、生徒がさまざまな考えに触れることができるようにしていきます。
		○親子で進路について話し合う機会を定期的に設けている家庭が80%以上。	A	A	(生徒)85.7%		

評価対象	羅 針 盤		自 己 評 価		学校関係者評価	今後に向けての学校の考え	
	評価項目	具体的数値項目	①	②	生徒・保護者 意見等		
Ⅷ 組織運営	[教職員マネジメント] 教職員は、設定した自己申告書の目標の達成に向け、主体的に日常の教育活動に取り組んでいる。	○自己申告書で各自が設定した今年度の目標の達成に向けて、具体的に努力している教職員が80%。	A	A	(教職員) 100%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二中の教職員の皆様のご努力の様子がうかがえます。本当にご苦勞様です。教職員のみなさんの努力に頭が下がります。日々努力をされていることが分かります。</li> <li>・すばらしい。校長の方針のもと、教職員がよく仕事をしていることがわかります。</li> <li>・当初の目標に向けて努力を重ねると、当初の目標以外の成果を得られることもあります。職員間で情報を交換・共有することで、新たな課題やその解決策が見つかることもあります。継続することが大切だと思います。</li> <li>・教職員の評価が100%というのは学校が一体となって取り組んでいる成果だと思います。</li> <li>・いろいろなツールを取り入れての工夫した授業を行っていると思います。</li> <li>・グループごとに輪番で研修講師を務め、情報を共有することが大切だと思います。</li> <li>・先生方の生徒に対する熱意ある指導に期待。</li> <li>・部活動の地域移管への取組が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校教育目標や学校教育の指針のもと学校課題解決のための自己申告書の作成をします。</li> <li>○管理職は授業参観の際に、自己申告書に基づき、目標や手立ての具現化といった視点と、校内研修の主題、副題にも関連させて参観し、具体的な指導助言を行います。</li> <li>○最終面談の際には、自己申告書の内容と普段の取組の様子、学校評価の結果による検証、週案簿の記録などを総合的に判断して評価します。</li> <li>○職員研修等の機会を活用し、定期的に服務規律の確保に係る意識付けの機会を設定するとともに、毎月実施する規律確保チェックリストを活用し、職員の意識の向上を図ります。</li> <li>○今年もICT活用プロジェクトの研究指定校として研修部を中心に意図的、計画的に校内研修が進められました。全教職員が意欲的、前向きに研修に取り組み、効果的なICT活用のスキルを身に付け、生徒の学力向上に資する指導力の向上と必要感のある資質向上が図れたと考えます。</li> <li>○USBメモリ等の個人情報の管理については、職員会議やC4thの掲示板等で適宜取り上げ、具体的事例を紹介するなどして個人情報の管理と個人情報セキュリティに対する教職員の危機管理意識を徹底します。</li> <li>○毎月の安全点検を徹底するとともに、学校事故の未然防止のために日常的に危険箇所の早期発見や修繕に努めます。</li> </ul>
	服務規律委員会を中心に、教職員の服務規律の確保に向けた取組が全職員で徹底して行われている。	○日常的に服務規律を遵守していると自覚する教職員が80%。	A	A	(教職員) 90.0%		
	[研修] 校内研修は、教師一人一人の授業力向上と、授業改善に結び付いている。	○校内研修によって、自らの授業力の向上や授業改善が図られたと実感する教職員が80%以上。	A	A	(教職員) 94.7%		
	[文書管理] 学校は、各種文書・データ等が分掌や担当ごとに適切に管理できているとともに、生徒の個人情報の保護の管理が徹底されている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の分掌や担当に関する各種文書やデータ等を適切に管理している教職員が80%以上。</li> <li>○USBメモリ等の個人情報の漏洩がないよう、確実に管理していると自覚する教職員が100%。</li> </ul>	A	A	(教職員) 100%		
[学校の施設設備] 学校は施設・設備の安全管理を徹底できている。	○施設・設備の安全管理が徹底されていると思う教職員が80%以上。	A	A	(教職員) 100%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全管理等に常にこれでよいと満足せず、不足部分を見つけて引き続き、取り組んでいただきたいです。</li> <li>・毎日の清掃、毎月の安全点検を積み重ねた素晴らしい成果だと思います。</li> <li>・安全管理が徹底されているのがすばらしい。</li> </ul>		